

聲明書

昭和十年七月二十四日日本製鐵從業員組合、日本産業労働協進組合の光輝ある合同大會に當り左の如く聲明す。

●労働組合運動の戦線統一に關する我等の態度

労働組合運動の戦線統一に關する我等の態度は、日本の國情に即したる眞の戦線統一でなければならぬ。即ち我等は日本労働者たる自覺に基き、労働運動の根本的基綱を國家的信念の上に置き、その確固不拔たる認識のもとに國家興隆の大なる基礎を成す、産業立國の徹底化と、全勤労働者の社會的將又經濟的機構の上に、一大改革を圖り、以て公正なる労働條件の確立を期すべき労働者の大同團結を隨一の目標とするものでなくてはならぬ。

この正しき目標の示す所によつてのみ、労働組合運動の本來の軌道が完全に視出され、その宏遠なる理想と大なる使命のもとに、労働階級の理解と、決定的努力が拂はれてこそ、労働組合運動の戦線統一は容易に實現し得られるものであると確信する。

●従來労働組合運動の過程

然るに従來我國に於ける労働運動の過程を見るに、その多くは歐米直譯の思想に眩惑され、所謂非國家的階級闘争に終始した、その結果、見よ！理論と現實の矛盾より來るギャツプの必然として、幾多離合集散飽なき限りをつくし、遂には組合運動をそれ自体は大衆の關心より遊離して一切の不統制を暴露したてはなないか、國家的信念寸毫だになく、労働組合の本質を單なる利己心のみに抱泥し、空漠たる階級闘争を以て生命とするが如き組合の存在が何處に認められるや。

最近國際情勢の變化に伴ひ是等の團體の中にも過去の運動の誤謬を認識し、國情に即したる指導精神に立脚せる組合もあるが然しながら依然として過去の殘滓を清算し得ずして、或は反戰的或は反國家的運動に狂奔しつつ純良なる大衆を惑かさしめんとしてあるを見逃してはならぬ。我等は斯の如き非國家的運動に對しては斷乎としてその絶滅を期しなければならぬ。

●産業協力精神に依る組合の擴大強化

然して我等は眞に産業人たる自覺の上に立つて、産業協力の精神のもとに日本産業の發展に協力し、健全なる労働組合運動に我等の實踐の據りどころを置き、自からの正義の實踐を通じて、その強大なる迫力を以て資本家を覺醒せしめ、將來搖ぎなき理想郷を現出すべく、其處に固き決意と大なる覺悟を有しなければならぬ。斯る雄大なる理想のもとに前述の如く、労働組合運動の戦線統一を是又大なる目標とするも、その發展途上に於ける我等の態度は漸新的強固なる陣容を整へ運動の基本實体を確立しなければならぬ。

先づ地方に於ける分散的組合の完全なる整備を期し、然して産業別組合の聯合組織へ進展せしむべきであるを確信する。即ち我々製鐵産業に従事する労働階級は、將來製鐵會社に於ける労働組合の一大合同を目標として、各々地方的實情に即して、所屬製鐵所從業員をして打つて一丸とせる強力なる労働組合の實現を期しなければならぬ。

●兩組合合同の意義

斯の如き労働階級の重大なる使命を考察する時、殊に國家國防上重要産業たる八幡製鐵所内に在りて、日鐵、日協兩組合の分立的立場にある事は從業員自身の福祉増進生活擁護の上に支障を來すのみに留らず、延いては國家的見地よりしても斷乎として避け得べきであるを確信する。茲に於て日本製鐵從業員組合と日本産業労働協進組合は、過去に於ける一切の感情と行懸りを清算して、眞に日本産業發展永遠の平和と從業員大衆諸君の幸福の爲めに、創立以來のあらゆる犠牲を捧げて、同志の白熱的賛意に迎へられて一大合同が完成されたのである。